

令和4年度(補正予算)独立行政法人福祉医療機構  
地域連携活動支援事業

# 事業報告書

## 困窮親子の居場所作りと 不登校ひきこもりの子どもも若者の 伴走支援事業



## 事業の背景

「労働者協同組合コモンウェーブ」は、発達に課題を抱える不登校の子どもたちを支援するため、2022年10月に新法人を設立し、フリースクール併設型の放課後等デイサービス事業をスタートさせました。

子どもが不登校になると、子どもは「学校に行けない」「皆と同じようにできない」という負い目から自己肯定感が低くなりがちです。親が送迎できないと、子どもは行政が運営する適応教室にも通えません。また民間施設であるフリースクールは月謝が3～4万円かかるところが多く、これに対し補助を出している自治体はまだ少数であるため、経済的に余裕がない家庭の子どもは通うことができません。子ども会等の地域のイベントにも参加しづらくなり、徐々に地域との関係が断たれ、地域から孤立していきます。

“不登校”という状況に加えて、貧困、ひとり親、発達障害、外国籍、養育放棄、ヤングケアラー、親の病気といった複合的な課題を抱えている子どもたちも多く、そうした子どもたちはより一層孤立を深め、小中学生ながら長年ひきこもっていたり、親も子ども将来に希望を持たず、非常に苦しい状況に置かれています。

そして、こうした複合的な課題を抱える親子をより一層生きづらくしている要因の一つに、子どもを取り巻く地域環境の脆弱さがあると私は考えています。

当組合が活動する三重県鈴鹿市は人口20万を抱えながら児童センターが市内に2か所しかなく、市内の約8割の子どもはアクセスすることができません。各地区にある地区センターの利用対象は高齢者で、子どもの居場所はありません。文科省が推進するランドセルを置いたまま夕方まで遊ぶことができる「放課後子ども教室」も、市内の2割程の小学校区で月1回～週1回開かれているにすぎません。

このような地域環境では、経済的理由から学童保育や習い事に通わせることのできない特にひとり親家庭の子どもたちは、放課後や長期休みに行く所がなく、異年齢・多人数で遊ぶ機会を与えられず、体験に乏しく、困った時に頼れる人がいないという状況に陥りやすくなります。また、鈴鹿市には中高生が無料で勉強できる公的な施設が図書館1か所しかなく、週末は17時で閉館するため、勉強する場がなくて困っている子どもたちがいます。

一方で、小学校区もしくは中学校区内に児童館を設置し、「放課後子ども教室」も月曜から土曜日まで毎日開設して、子どもたちが一人で行ける範囲内に日常的に利用することができる“居場所”を確保している自治体が全国には数多くあります。そうした自治体では図書館が20時まで開いていたりと、文化会館の1室を22時まで学習室として開放したりして、子どもたちにいつでも無料で学べる環境を提供しています。

2021年3月には、高齢者も利用できる複合型の児童館の設置を求める署名、市内11,679筆・市外2,955筆を鈴鹿市長に提出しました。しかしその後進展はなく、子育て支援に熱心な自治体と鈴鹿市とでは、子どもが育つ環境に大きな差があると感じています。生まれた家庭の経済状況や地域における子育て環境の格差が、教育格差や将来の経済格差に影響し、ひいては地域における人材育成にも影響すると思われます。

こうした背景から今回の事業では、困窮、不登校等の生きづらさを抱えた子どもやひとり親と繋がり、地域で支え合うことで、子どもたちやひとり親の生きづらさが少しでも緩和されよう、多岐にわたる活動を実施してきました。ありがたいことに、たくさんの地域の人々や団体が協力してくださいました。

一人でも多くの子どもたち、若者たち、そして頑張っているお母さんたちが毎日を笑顔で過ごし、未来に希望をもって生きていけるように、これからも地域の力を合わせて、地域の困りごとの解決に取り組んで参ります。

代表理事 山浦久美子

## 私たちの取り組み



## この1年で取り組んできたこと

### 活動報告1 児童館のような居場所「ぼかぼか広場」



#### 目的

- 1) 小中高生に自由に過ごせる居場所を提供する。
- 2) 集団で外遊びやボードゲームをしたり、一人で漫画を読んだり、「自分らしくいていい」という安心感を通して、子どもたちの自己肯定感の向上を図る。
- 3) 異年齢での遊びを通して社会性を培う。
- 4) 困り事について子どもたちが気軽に相談できるようになる。
- 5) 発達に課題のある放課後等デイサービスの子どもと地元の子どもたちの交流を促すことでインクルーシブな社会をめざす。

#### 活動内容



ぼかぼか広場を開放。広場には5メートルの大型トランポリン、サッカーゴール、バスケットゴールを設置し、室内には1,500冊以上のマンガ本や多数のボードゲームを取り揃え、地域の子どもたちと発達に課題を持つ放課後等デイサービスの子どもたちが利用できるようにした。

ボランティアサイトでの告知により、毎回3名程の高校生から社会人のボランティアが参加し、子どもたちとの遊び相手を担ってくれた。



**参加者：**8～10名/回、延べ863名  
(幼児19名、小学生237名、中学生165名、高校生25名  
保護者27名、ボランティア140名、スタッフ250名)

**開催日：**毎週水曜日14:30～17:00  
第1・第3土曜日の10:00～15:00 (計52回)

#### 成果

- 1) 発達障害の子と地域の子と一緒に活動できる機会を提供できた。
- 2) 初めて参加する地域の子どもたちもすぐに打ち解け、5mの大型トランポリンやドッジボール、バスケ等で、毎回楽しく遊ぶことができた。
- 3) 異年齢での交流により、年上の子たちが年下の子たちを気遣う姿が随所で見られた。
- 4) 一人静かに本を読んだり、数人でボードゲームに興じたり、工作をしたりと、子どもたちが思い思いに過ごすことができた。
- 5) 高校生から30代のボランティアが多数参加し、若者たちに多様な価値観に触れる機会を提供することができた。



#### 子どもたちの声

##### ぼかぼか広場に参加して「良かった」理由

- ・トランポリンができるから。
- ・コマなど、ボランティアの人といろいろなことができるから。
- ・みんなと交流できるから。
- ・いろいろなお友達ができて楽しいから。

## 活動報告 2 小中学生のための無料学習塾



### 目的

学びたいと思っている子どもたちに、自由に学べる機会を提供する。

### 活動内容

主に勉強に遅れが見られる小中学生や、テスト前に復習がしたいという中学生を対象に大学生や元教員が勉強を教えた。

**開催日：**毎週水曜日18:00～19:30（計43回）

**参加者：**2～3名/回、延べ133名

（小学生29名、中学生34名、保護者21名、ボランティア22名、スタッフ26名）

### 成果

- 1) 継続的に参加する中学生に対し、マンツーマンで丁寧に指導。勉強に対して苦手意識や遅れがあったが、続けることでわかることが多くなり、勉強に自信が持てるようになった。
- 2) 勉強をする習慣がない小学生に勉強に集中できる居場所を提供した。
- 3) テスト前に分からない問題を質問したい中学生に対応した。



### 子どもたちの声

#### 無料学習塾に参加して「良かった」理由

- ・丁寧に教えてくれているから。
- ・家では自主学習はできないが、ここに来ると勉強に集中できるから。
- ・楽しく学ぶことができているから。

## 活動報告 3 小中高生のための音楽塾（ひとり親家庭無料）

### 目的

家庭の経済環境に左右されることなく、小中高生が気軽に音楽に触れることのできる機会を提供する。

### 活動内容

エレキギターとドラム、アンプを用意し、手ぶらで気軽にレッスンができるようにした。スタッフは音楽好きの大学生と社会人が担当。

**開催日：**第1・第3水曜日18:00～20:00（19回）

**参加者：**2～3名/回、延べ82名

（小学生11名、中学生17名、高校生9名、保護者9名、ボランティア20名、スタッフ16名）

### 成果

- 1) 小学校高学年の児童と中学生が定期的に参加し、エレキギターとドラムを中心にレッスン。回を追うごとに上達してきた。
- 2) 全員ひとり親家庭のお子さんでレッスンを心待ちにしており、彼らに楽しく通える第三の居場所を提供することができた。



### 子どもたちの声

#### わくわく音楽塾に参加して「良かった」理由

- ・友達ができたから。
- ・ドラムが楽しいから。高校生になってもずっと参加したい。
- ・アイドルの曲を弾けるようになりたいから。

## 活動報告 4 中高生のためのeスポーツ倶楽部（ひとり親家庭無料）



### 目的

ひきこもりの状況にある不登校の子どもたちを居場所に繋げ、協力型ゲームを通してコミュニケーション力を高めていく。

### 活動内容

ノートパソコンを取り揃え、手ぶらで気軽にEスポーツを楽しめるようにした。チームで闘うヴァロラントに取り組み、指導はプロゲーマーのKNIGHTさんをお願いした。

**開催日：**第2・第4水曜日18:00～20:00（計21回）

**参加者：**2～3名/回、延べ82名（中学生37、高校生1、大人10名、スタッフ32名）

### 成果

- 1) チームワークが必要なヴァロラントに取り組むことで、ひきこもりの状況にある不登校の中学生にオンラインではなく、リアルで繋がりたいというモチベーションを与えることができた。
- 2) 参加者の多くは不登校の中学生で、うち一人は昼夜逆転のひきこもり状態にあったが、eスポーツを契機に、フリースクールにも繋げることができた。

### 子どもたちの声

毎回楽しみにしている。5名のフルメンバーでヴァロラントをやりたい。

## 活動報告 5 ボードゲーム出前講座

### 目的

- 1) 子どもたちにボードゲームで遊ぶ機会を提供する
- 2) 子どもたちが教える立場に立つ機会を提供する



### 活動内容

亀山市の学童保育にてボードゲームの出前授業を行った。実施にあたり、講師役の子どもたちはルール説明等の練習を積んだ。出前授業では多種多様なボードゲームを紹介し、学童の子どもたちにボードゲームの楽しさを体験してもらった。

**開催日：**8月17日

**参加者** 講師側：小学生2名、中学生2名、高校生3名、大学生1名  
学童保育側：小学1～6年生57名

### 成果

- 1) ベガス、街コロ、ディクシット、ごきぶりポーカー、ダブル君、ヒューゴ等の様々なボードゲームを1時間半にわたり紹介。  
講師役の子どもたちは発達に課題を抱えていたり、不登校の経験のある子どもたちだったが、学童の子どもたちを楽しませようと一所懸命に取り組んでいる姿が見られた。
- 2) 学童保育の子どもたちからは、「楽しかった！」との声が聞かれた。



### 子どもたちの声

- ・小学生に教えるのは難しかったけれど、楽しかった。
- ・みんなに楽しんでもらえて嬉しかった。

## 活動報告 6 児童館祭り&かえっこバザールの開催



### 目的

- 1) 地域の子どもたちに無料で遊べる機会を提供する。
- 2) 子どもたちに店長体験やイベント運営の機会を提供する。
- 3) 地域の人々や団体との親睦を深める。
- 4) 遊ばなくなったおもちゃを子ども同士で交換するシェアエコイベント「かえっこバザール」を同時開催することにより、おもちゃのリユースや環境教育を促進する。

### 活動内容

本番前に事前準備会を5回開催し、垂れ幕作りや各ブースのポスター作り、スタンプラリー、かえっこバザール用の商品の値付けなどの準備作業を子どもたちと行った。当日は受付、体験コーナー、かえっこのレジ、オークションの運営など、多くのお仕事を子どもたちが担った。

#### [準備会]

開催日：8/23、8/30、9/9、9/30、10/7（計5回）

参加者：延べ34名（小学生：6名、中学生：3名、高校生：12名、保護者：4名、スタッフ：9名）

#### [児童館祭り]

開催日：10/9 13:30～16:00

参加者：121名（未就学児～高校生：60名、保護者：30名、ボランティア：12名、スタッフ：6名、協力団体スタッフ：13名）



#### 参加団体によるブース

- ・コープみえ鈴鹿センターさんによる「ベジチェック」
- ・鈴鹿市社会福祉協議会さんによる「ふくし体験（手話）」
- ・鈴亀アミーゴスさんによる「ブラジルの遊び」
- ・鈴鹿友の会さんによる「手ばかり」
- ・ウミガメネットワーク三重さんによる「ウミガメなりきり体験&紙芝居」
- ・ぽかぽか広場によるギター&ドラム体験
- ・放デイサニーぷらすによる「輪投げ&ストラックアウト」

### 成果

- 1) スタッフ役の子どもたちに協働体験を提供することができた。
- 2) 地域の親子が体験イベントやかえっこバザールをととても楽しんでいた。
- 3) 食品や景品の提供やブースの出店等、様々な地元の人々・団体との協力体制を構築することができた。

### ボランティア参加者の声

#### 児童館祭りに参加して「良かった」理由

- ・子どもから大人まで様々な人と関わることができた。少し自分の価値観が広がったように思う。
- ・みんなが楽しそうに遊んだり、体験していて、とても嬉しかった。

#### ボランティアをするにあたり工夫したこと

- ・子どもたちができるだけ自分たちでできるように見守った。
- ・参加してくれた子どもたちと同じ目線で話すようにした。
- ・自分から声をかけるようにした。

### 保護者の声

- ・ブースもいろいろあり、子どももすごく楽しく参加することができた。
- ・楽しみながら環境について学べるようになっていて、とても有意義なイベントだった。
- ・かえっこのオークションで自分から声を出して落札できていたので、成長を感じた。
- ・周りを見ながら今自分にできることは何かを判断し動くことができる、とてもいい機会だったと思う。





## 目的

困窮ひとり親家庭等、困難な状況にある子育て家庭に寄り添い、自立に向けて支援するため、関係性を築く手段としてお片付け支援を実施する。

### 1) 家事支援アドバイザーによる勉強会の開催

#### 活動内容

整理収納ディレクターの佐治純子氏による、片付けと掃除の違い、片付けの基本、実作業の仕方等についての勉強会を実施した。

開催日：4/26 参加者：5名

**成果** 片付けの際の手順や声のかけ方等が明確になった。

### 2) Aさん宅のお片付け支援

#### 活動内容

3人の子どもがいる古民家にお住まいのご家庭で、机にも床にも物が散らかり、物で溢れていた。散乱しているゴミや不要品を大量に片付け、古い家具は処分して収納スペースを設けた。

実施日：6/7、6/21、6/28、7/5、7/12 の9:30~12:00 (計5回)

参加者(スタッフ)：2~4名/回、延べ14名

#### 成果と課題

- 1) 支援に入った後は家の中が片付き、かなり改善が見られた。対象者からは「片付けたいと思っけていても、日常生活で手が一杯で、また自分一人では思い切って処分することもできずにいたので、一緒に片付けてもらって本当に良かった」との言葉を頂いた。
- 2) 子どもたちに発達障害があり、片付ける習慣がなく、すぐにまた散らかってしまうため、支援者の心理的負担が大きかった。福祉サービスに繋がたいと考えたが、子どもの障害では該当するサービスはなかった。

### 3) Bさん宅のお片付け支援

#### 活動内容

幼児2人を持つひとり親で実家は頼れず、仕事、家事、育児を一人で抱えて疲弊していた。当組合が実施する月2回の子ども地域食堂「ぼかぼかキッチン」ではスタッフによる傾聴や託児をし、食料配布をしていたが、それとは別に月2回ご家庭を訪問して託児・お片付け支援を実施した。

保育園がお休みの年末年始に母親が体調を崩して寝込んだ時には、急遽1泊2日で子どもたちをスタッフ宅にて預かり、子どもたちは3日ぶりに入浴できた。

参加者 スタッフA：11回・話し相手, 託児, お片付け スタッフB：1回・話し相手  
スタッフC：2回・お泊り保育 延べ14名



#### 成果と課題

- 1) 1回5000円~8000円相当の食料配布で家計を支え、幼児2人の託児と母親の傾聴をすることで、母親の負担とストレスの軽減に努めた。
- 2) 支援する側への負担が大きくなったことから、障害福祉サービスを提案、手配をしたが、母親の考えにより使用するには至らなかった。



## 目的

困難な状況にある若者やひとり親家庭に食料を届け、家事支援を通して困りごとの解決を図る。

### 1) 外国籍シングルマザーの第2子出産支援

#### 活動内容

幼児1人を持つ外国籍のひとり親の妊婦で、収入は子ども手当のみという極めて困窮な状況にあった。鈴鹿市では「ひとり親家庭等日常生活支援事業」を実施しておらず、ファミリーサポート制度は市の補助を受けても1時間約500円かかるため、経済的理由から利用できずにいた。鈴鹿市も支援に入っていたが、市が提案した計画出産を母親は拒否したため、当組合が1か月半にわたり支援に入った。

出産前は長子の託児、県営住宅の申込申請の付添いを行い、出産時はスタッフAが母親を病院へ搬送、スタッフBが長子をショートステイ先へ搬送した。出産後は退院時の送迎、朝晩の長子の保育園への送迎、出生届等の手続き代行、食料の提供、週3回の食事作り、検診時の付添い、鈴鹿市社協との連携（新居探しや在留手続きの相談）等をスタッフ3名の連携で実施した。

参加者 スタッフA：全体統括、出産時の病院搬送、退院時や検診の付添い、県営住宅申込の通訳・19回  
 スタッフB：託児、出産時のショートステイへの送迎、出産手続きの代行、保育園への送迎・11回  
 スタッフC：保育園への送迎、食事作り支援・19回 延べ49名

#### 成果と課題

- 1) 母親からは、「みんなに助けってもらったから、ゆっくり休めた。食事を作ってもらえたので、長子の時よりも母乳の出が良く、赤ちゃんの発育もいい」と喜ばれた。
- 2) 今回のような支援をボランティアで今後請け負うことはできず、鈴鹿市における「ひとり親家庭等日常生活支援事業」の早期導入の必要性を痛感した。

### 2) 10代未婚の母の産後支援

#### 活動内容

未婚の母になった10代女子を支援。産後ケアで週1回、話し相手や食事作りをしに訪問した。赤ちゃんの症状について質問があった時には、社協に専門家の派遣を依頼。伴走支援には、同じくシングルマザーで子どもを産み育ててきたスタッフが入り、養育費の請求や今後の生活についても相談にのった。

参加者 スタッフD：話し相手、食事支援、情報提供・6回  
 スタッフE：話し相手、食事支援、情報提供・7回 延べ13名

#### 成果と課題

慣れない育児で自分の食事を作る余裕がなく、レトルト食品で日々の食事を済ませていた。温かい食事を持って訪問すると喜び、心配事を話してくれた。次の訪問日を連絡しても、返事が返って来ない状況が続き、赤ちゃんを保育園に預けられるようになったことから支援終了とした。

### 3) 高校生一人暮らしの伴走支援

#### 活動内容

祖父と兄と暮らしていたが、一昨年に祖父が他界。兄も他県へ引っ越したため、一人暮らしになったことから月1回、食料や日用品を持って訪問した。支援し始めの頃は近くのドラッグストアに一緒に行き、必要な物を選んでもらいながら、好みや生活状況についてヒアリングした。引っ越しに向け、大量の不要な家具を処分する必要があった際には鈴鹿市社協に依頼し、協力を仰いだ。

参加者 スタッフF：食料訪問配布・11回 延べ11名

#### 成果と課題

月に一度の訪問ではあるが、学校やアルバイトのこと、進路のことなどをヒアリングし、何かあればLINEで相談に乗れる関係性を構築できた。



## 活動報告 9 不登校座談会 & 相談会の開催

### 目的

不登校児童生徒を抱える保護者に、不登校に関する悩みをシェアする機会と個別相談の機会を提供することで、保護者の不安の軽減を図る。

### 活動内容

座談会には不登校経験を持つ大学生、フリースクールのスタッフが同席し、スクールカウンセラーも務める公認心理師の石井浩氏がコメントする形で実施。座談会の後には、石井氏による無料の個別相談会を実施した。

**開催日**：7/8、11/18（計2回）

**参加者**：延べ13名（不登校生の保護者5名、大学生3名、スタッフ3名、公認心理師2名）

### 成果

- 1) 中学生の不登校生をもつ保護者が参加。子どもにどう対応しているのか不安に感じている保護者に、不登校経験のある大学生の当事者としての話が大変参考になっていた。
- 2) 個別相談会に参加した保護者は不安が軽減したようで、安心した表情で帰って行く姿が見られた。
- 3) 11月の相談会をきっかけに、ひきこもり状態にあった中1男子が12月からフリースクールに通うようになった。



## 活動報告 10 子ども服等のリサイクル「どうぞの棚」の設置

### 目的

- 1) 児童館のような居場所「ぼかぼか広場」に、不要となり寄付された子ども服や学用品を展示する「どうぞの棚」を設け、必要とする人が必要な物を自由に持って行けるようにする。
- 2) 物の循環を通して、地域の人の交流を図る。

### 活動内容

「どうぞの棚」を設置し、80cm~160cmまでの子ども服を男女別に整理して陳列。自由に持って行くことができるようにした。

**利用者** 子供服・おもちゃの寄贈者：40名、どうぞ棚利用者：25名

### 成果と課題

- 1) 子ども地域食堂「ぼかぼかキッチン」や児童館に遊びに来た親子が、必要とする子ども服を持って帰ることができた。
- 2) フードパントリーを利用するお母さんたちが、使わなくなった子ども服や絵本、学用品を持参してくれており、「どうぞの棚」は、支援する側とされる側との間に対等な関係性を構築するための貴重な手段となっている。
- 3) 集まった物の仕分けと、いかに活発に物を循環させていくかが、今後の課題である。



## 活動報告11 自主上映会「ぼかぼかシネマ」



### 目的

SDGSや社会問題に関する良質なドキュメンタリー映画の上映を通して、社会課題への人々の関心を高めていく。

### 活動内容

CINEMO（ユナイテッドピープル）と年間ライセンス契約を結び、月2回上映会を開催。上映会の後には感想を述べ合う時間も設けた。

**開催日：**第1・第3土曜日19:00～21:00（計20回）

**参加者：**延べ130名（未就学児3、小学生7、中学生12、高校生5、大人70名、スタッフ33名）

### 成果と課題

- 1) 映画を通して、様々な社会課題を知ることができた。
- 2) 社会課題について感想や意見をシェアすることで、お互いの考えを知るきっかけとなった。
- 3) 予想していたよりも参加者が少なく、地域における社会課題への関心の低さを感じた。

### 参加者の声

#### 「A Plastic Ocean—プラスチックの海」を観て

- ・ 衝撃的な映画だった。マイクロプラスチックの厳しい現実を改めて知った。なるべくプラスチックを使わないようにしていきたいが、過剰包装をやめていかないと思う。
- ・ 鳥の死骸の解剖で、胃の中からたくさんのプラスチックごみが出てきたのを見ると、息が苦しくなってきた。人間が殺しているのも同然。昔に比べたらリユースも進んできたが、道端にはゴミが捨てられているし、大人の意識を変えて行かないといけないと思う。
- ・ 映画で取り上げられていたドイツの仕組みのように、リサイクルして儲かるようにしたら、回収意識が出てくると思う。

## 活動報告12 事業報告会 & 事例検討会の実施

### 活動内容

事業報告会を鈴鹿市社協、NPO法人SHININGとの共催で実施した。

**準備会：**12/12、2/22（計2回） **参加者：**延べ13名

**報告会：**3月13日13:30～16:00（鈴鹿市社協にて） **参加者：**36名



### 報告会の内容

- 1) 「日本郵便年賀寄付金助成金による食料訪問配布事業から」（NPO法人shining）
- 2) 「共に生き、支え合う地域づくりをめざして—WAM助成事業 & フードパントリー事業の取り組みから」（労働者協同組合コモンウェーブ）
- 3) 「グループワークによる事例検討会」（鈴鹿市社会福祉協議会）  
複合的な課題を持ち合わせた世帯に関する事例紹介と支援の組み方についてのグループワーク

### 成果

- 1) 鈴鹿市社協のコーディネートにより、子ども、障がい、生活困窮に関わる鈴鹿市の職員や民間団体のスタッフが多数参加し、鈴鹿市のひとり親家庭の現状について情報共有することができた。
- 2) グループワークでは、困窮、障がい、ヤングケアラー、不登校、ひとり親、多子、病気といった複合的な課題を抱える世帯に対し、行政、民間それぞれの立場からどのような支援を提供できるかについて協議した。民と官が同じテーブルの上で相談し合うことで、地域の様々な地域資源（リソース）を発見したり、活用できる制度について知る非常に有意義な時間となった。

## メディア掲載

- ・神戸高校放送部から取材を受け、同放送部のHPに掲載された（7/12）
- ・FM三重 ゲツモク番組内「子育てコープ」で2回にわたり放送された（9/7, 9/14）
- ・『伊勢新聞』のお正月の特集記事「子どもにやさしいまち鈴鹿市独自条例年内施行へ」に掲載された（2024.1.1）



## ボランティア参加者の声

- ・自分でも役に立てることを見つけることができ、自信に繋がった。
- ・ありのままの自分でいられるようになり、楽になった。
- ・居心地が良い。居場所づくりの重要性を学んだ。
- ・ボランティアは“お手伝い”という意識が強く、指示を待っていた時期もあった。会社でも上司の指示のもとに動くことが多かった。ここでは、“お手伝い”もするが、自分でやれることを探して行動したり、相談して実行したりして積極性が向上した。
- ・ボランティア活動を通して、子どもの成長や人格形成に携わり、自分自身も子どもたちと共に学び成長できることにやりがいを感じた。
- ・子どもたちが、できないことができるようになったり、諦めずに何度も挑戦したりしている姿を見て、こちらにも勇気やパワーをもらった。
- ・子どもの指導や注意の仕方に関して、柔軟な対応力を身につけることができた。
- ・子どもが自分の思うようにならず、拗ねたり怒ったりして感情を爆発していた時に、指導員の方の対応に学ぶことがあった。「何が嫌だったのか？」「どうしたかったのか？」「どんな気持ちだったのか？」等、子どもの気持ちを引き出して指導されていたのが勉強になった。  
ボランティアを通して自分も学んでいる。
- ・子どもたちに色々なことを与えられるよう努力しなければと思っていたが、実際にボランティアで様々な子どもたちと関わると、子どもたちから学ぶことや気づきを与えられることのほうが圧倒的に多く、その学びが自分自身の成長へと繋がり、子どもに対してより良い指導や関わりが可能になると感じた。  
互いに支え合いながら、子どもと共に学び続け、成長し続けられるような人間になりたいと思った。



## 事業を通して見えてきた課題

- 1) 鈴鹿市では「ひとり親家庭等日常生活支援事業」を実施しておらず、今回の事業を通して、その必要性を痛切に感じた。自治体によっては、月12日間、無料で利用できるとしている所もある。週3回、育児支援や家事支援を受けることができたなら、今回支援に入ったひとり親家庭の肉体的精神的負担は軽減され、虐待のリスクも減ると考えると、ここでも地域間格差が浮き彫りになる。ひとり親家庭等日常生活支援事業については、事業報告会でも指摘させていただいたが、今後も引き続き鈴鹿市に働きかけていきたい。
- 2) 今回の事業の広報としては、5月と9月に近隣の小学校6校と中学校5校、保育園2か所にチラシを配布した。9月には市教育委員会の後援も取り、計6,000枚のチラシを配布。10月の児童館祭りについては鈴鹿市広報にも掲載した。児童館祭りには多くの参加があったが、児童館事業や無料学習塾は参加人数が当初の予想よりも下回った。高齢化地域に立地しているということもあり、親が送迎できないとアクセスできないということも一つの要因と思われることから、来年度は送迎付きの居場所事業を展開していきたいと考えている。

## これからの展望

### 1) 若者支援

5月にボランティアサイトを構築して以来、児童館事業には毎回2～3名のボランティアが参加してくれているが、仕事に悩みを抱えていたり、行き詰まったりしている若者が多いことを知った。児童館活動や無料学習塾等でのボランティアを通して子どもたちと関わることで、悩みを抱える若者たちも成長し、新たな挑戦を始める姿を見てきた。生きづらさを抱える若者たちにとっても自分らしくいられる居場所であるよう、今後も取り組んでいきたい。

### 2) インクルーシブ教育の推進

当組合は放課後等デイサービスやフリースクールを運営していることから、今回の事業には不登校児童生徒や発達に課題を持つ子どもたちも多く参加した。ボランティア参加者の中には教職希望者も多く、インクルーシブ教育について理解を深めるきっかけにもなった。今後も、様々な課題を抱える子どもたちの居場所・学生たちの学びの場となるよう取り組んでいきたい。

### 3) おたがいさまの関係性

一方的に受け取るだけでは支援者―被支援者というタテの関係が生まれてしまいがちである。フードパントリーの支援を受けている方が、「どうぞの棚」に着られなくなった子ども服や使わなくなったおもちゃを持って来てくれたり、子ども地域食堂の調理をお手伝いしてくれたり、「おたがいさま」の関係性を構築することができた。これからもWIN-WINの関係を築いていけるよう心がけていきたい。

### 4) 地域力の向上

地域共生社会に向けて、鈴鹿市でも今年から重層的支援への取組みが開始される。今後も行政職員と地域の人々が協力し合い、様々な視点とリソースを持ち寄ることで複合的な課題についても多様なアプローチで対応できるよう、地域力の向上に励んでいきたい。



令和4年度(補正予算) 独立行政法人福祉医療機構 地域連携活動支援事業  
困窮親子の居場所作りと不登校ひきこもりの子ども若者の伴走支援事業報告書(発行:2024年3月)



労働者協同組合コムンウェーブ  
三重県鈴鹿市長太栄町4丁目3番1号  
HP: <https://commonwavejapan.com>  
info@commonwavejapan.com



Facebook



地域活動



放課後等  
デイサービス



フリースクール